

## 高校生等への修学支援の高校現場から見た課題

団体名 全国高等学校長協会

## 効果・影響・課題

1. 高等学校等の進学に当たって、経済的な支援を受けたい家庭に対しては有効な支援となるが、「特に進学を希望していなかったが、授業料等の負担がないなら進学しよう」という消極的意識で進学する生徒は学習意欲が低く、退学等につながる傾向がある。よって、高等学校を義務教育化する方向性や方針があつての制度でないのなら、高等学校の特色が失われていき支援の効果はあまり期待できないという意見がある。
2. 家庭の状況は様々であり、「ひとり親」「外国籍」「親子別居」等の世帯もあり、現行の支援の基準となっている第1子、第2子等の定義では計れない状況がある。
3. 経済状況により私費（学校徴収金等）未納の家庭が増えている。私費未納者の対策も必要になっている。
4. 書類の管理に不安がある。生徒→担任→経営企画室担当と経由することによる個人情報紛失のリスクがあり、また封をしないで提出する保護者が多い。
5. 給付型奨学金制度と合せて、保護者が混乱して書類不備が多く発生することを懸念する。他にも東京都事業には「東京都公立学校等奨学のための給付金制度」があり、名前も似ているため混乱する心配がある。

## 要望

1. 家庭の経済格差を解消することが前提であるが、年収だけではなく学習意欲や成績・生活態度等を面接によって審査して「奨学金」として支給することを検討してほしい。
2. 東京都では、外部委託による支援金等事務を行う派遣職員が各校1名配置されているが、学校により書類の提出状況や書類不備の数、連絡を必要とする未提出等の数に大きな差異がある。認定手続きの煩雑さもあり、他県との対応差も課題となっている。国として事務担当者の負担軽減に向けた対応を検討してほしい。